



～北雄の翼2025～

日 程

令和7年7月6日(日)～14日(月)

7/6 (日)	出国手続き後、空路ボストンへ ボストン着・タフツ大学寮へ移動
7/7 (月)	他国生との合同プログラム・キャンパス内ツアーおよび 大学周辺散策・イブニングアクティビティ (7/7～7/11 午前中は英語プログラム)
7/8 (火)	日本人ゲストによる講演会・イブニングアクティビティ
7/9 (水)	訪問研修 Koch Institute (癌研究センター) フレッチャースクールの社会人大学院生との座談会
7/10 (木)	ハーバードキャンパスツアー・イブニングアクティビティ
7/11 (金)	MITキャンパスツアー・ イブニングアクティビティ (ダンスパーティー)
7/12 (土)	ボストン市内／近郊「班別自主研修」
7/13 (日)	出国手続き後、空路日本へ (14日秋田着)

同窓会のご支援により2018年から続く海外研修「北雄の翼」に、今年は32名の生徒が参加してきました。ボストンを舞台に、午前中は英語クラスでの他国生とのディスカッション・ディベート・プレゼンテーションなどの言語トレーニング、午後にはハーバード大学やマサチューセッツ工科大学など世界トップクラスの教育機関を訪問しました。他国の生徒たちとスポーツやゲームなどのアクティビティーを通して交流したり、研修の成果をプレゼンで披露して活発な意見交換を行うなど、充実した時間を過ごすことができました。昨年同様、地下鉄の工事が続いている柔軟な対応や行動力を試される場面もあり、別の側面からの研修の機会がありました。研修で得た経験や自信、仲間との絆を胸に、帰国後もそれぞれの目標に向かって挑戦を続けています。

生徒の感想

2B 渡部 葵

研修前は、語彙や文法に自信がなく、英語での会話ではテンポが落ちてしまうことが多かった。しかし研修で多くの人たちと英語で会話をするうちに、これまでよりも積極的にコミュニケーションを取ることができるようになった。さらに、「もっと十分に英語でやり取りができるようになりたい」と強く感じた。日本語ではなく英語で過ごす時間は刺激的で、多くの学びがあった。ボストンでの体験や世界中から集まった学生との交流を通じ、秋田にいる時よりも多様な文化に触れることができた。例えば、日本のじゃんけんに似た遊びや折り紙のような文化など、国は違っても共通の話題があることに気づき、とても興味深かった。今後は、「北雄の翼」での経験を生かし、より多くの国や文化、さらには異なる考え方を持つ人々と関わる際に、積極的に話しかけ、英語が多少わからなくとも乗り越えられるよう努力していきたい。



2E 工藤 朋子

タトゥーを入れた高いポニーテールのCA (客室乗務員) や、頭にトウモロコシを思わせる細かい編み込みを入れたコーンロウ姿の保安検査員など、日本では見られない光景に驚きながら始まった北雄の旅は、私を精神的にも物理的にも大きく成長させてくれた。まず立ちはだかったのは物価の壁である。後輩たちには、現地の人との金銭感覚の違いを理解したうえで、お金の使い方についても考えて欲しいと伝えたい。また初めは英語力の不安から、目の前に話したい相手がいても話しかけられないもどかしさを感じることもあった。しかし、ガイドや英語クラスのクラスメイト、先生などの英語話者と1対1の会話を重ねたり、観光の合間に自分なりに英語で挑戦したりすることで少しづつ自信を付け、日を追うごとに英語で話すことを楽しみながら行動できるようになった。この悔しさや挑戦の経験は、日本では得られない貴重な財産であると断言できる。これからも現状に満足せず、目標に貪欲に挑戦し続け、自分をさらに成長させていきたい。

